

ライフケアガーデン湘南 特定入居

症例概要 利用者:80代 男性 要介護1

利用期間:2019年2月～現在

経過:ご夫婦で入居されるも先に妻が他界、短期記憶障害があり、妻の死を期に、帰宅願望が強く、死を受け入れられないジレンマ、葛藤。

多職種との連携で、死を受け入れ、心豊かな生活環境を取り戻すことができた事例。

内 容

2019年2月医療保護で妻と一緒に入院。帰るお金が欲しい、とんでもないところにきてしまった。と入院に自覚がなく同じこと何度も繰り返される。

食事・排泄・入浴などご自身でできているも結果、アルツハイマー型認知症・パーキンソン病疑いと診断。

当施設に、入居されていた方のご兄弟の紹介でご夫婦入居となる。入居されてすぐに奥様が体調を崩され他界。その後、葬儀に参加するも短期記憶障害があり亡くなられたことを忘れてしまう。ご本人からは嫁がないなど探す様子が見られ、都度奥様は亡くなられたことを伝えると、そんなはずがないだろうと怒り出すことが見られエレベーターに乗られ、外に出ようとされることが多々あった。奥様が他界されたことを隠すことなく、本当のことを伝え傾聴・ユマニチュードの実施、必要時には葬儀に出席されたときの写真を使用し、理解に努めた。

施設から出られないことで興奮しスタッフに対し、体当たりや払いのけるなどの攻撃的になられることも多々あり、ご本人の希望通りにスタッフが同伴で外に行くも、もうあそこには帰らないなど、長時間施設に戻れないときもあった。エレベーター前にいることが増え、これから帰るから途中まで連れて行ってほしいと強く言われたり、来館者のエレベーターと一緒に乗り出ていくことが増えていった。看護連携をするも不穏症状が緩和できない日々が続き、時おり看護と死を隠すことのほうがご本人にとって負担がすくないのではないかと意見がすれ違うこともあった。

3ヶ月が過ぎるころ、妻に会いに行くと言われた時に、奥様が亡くなったことを伝えると、知っていると言われ墓参りに行きたいと発言あり、ご家族と調整し後日お墓参り行くことができた。少しずつ不安な言

動に落ち着きが見られ、6ヶ月がたつ頃、同じ同席の方とお話をされることが徐々に増えた。レクリエーションや、イベントのお誘いなどをし、お気持ちが充実するよう毎日のレクリエーションを実施した。

帰宅希望時はご本人の希望に沿うよう、外出・散歩を実施。奥様がお亡くなりになられたことは隠すことをせず、ありのままを伝えることで、ご本人の記憶に残ることができた。今回の関わりで介護・看護が協力しご本人に”死をかくさない”ことが結果、短期記憶障害を乗り越え、妻の死を受け入れ、帰宅願望が消失したことに繋がったのは介護・看護が日々の関わりのなかで傾聴やユマニチュードを実施することで不安感がなくなり、心が豊かになったからと思います。今ではGPS装置も外れ、帰宅願望も無くなりました。余暇時間では同席の方と将棋をされることが日課になり、毎日が充実しております。